

一般社団法人 三重県作業療法士会 広報誌

OTみえ

No.144

2026.2

NEWS

第36回三重県作業療法学会のご案内

一般社団法人三重県作業療法士会 創立40周年記念式典



●三重県士会のホームページ [三重県 作業療法](#) で検索

●災害時連絡用メールアドレス mieotsaigai@yahoo.co.jp

contents

【広報部からのお知らせ】

掲載内容について

会員の皆様へ:広報誌への掲載希望、要望についてご意見をお聞かせください。

広報部 e-mail: mieot.kouhou@gmail.com

[卷頭言]

第36回三重県作業療法学会のご案内 学会長 鈴鹿中央総合病院 杉野達也

[知人 de リンク]

市立伊勢総合病院 伊藤留菜

榎原温泉病院 蒔田正俊

[施設紹介]

松阪市子ども発達総合支援センター 「そだちの丘」 高山智子

[一般社団法人三重県作業療法士会 創立 40 周年記念式典 総括・御礼]

創立40周年記念事業 実行委員長 宮坂裕之

[エキスパートに聞いてみよう]

「パラスポーツについて」 南勢病院 浅沼慎也

[各部局、委員、ブロックの活動報告]

啓発部 令和7年度一般公開講座

地域リハ部 地域ケア会議見学会のご案内

広報部 三重県士会公式 LINE「リッチメニュー」について

運転と作業療法委員会 研修会について

北勢ブロック 北勢ブロック研修会について

中勢ブロック 中勢ブロック懇親会を開催して

[賛助会員のご紹介]

日本モッキ 〒516-0008 三重県伊勢市船江 3 丁目 17-19

Tel. 0596-65-6039 https://www.nihonmokki.jp/puzzle_rental/

株式会社システムネットワーク ヘルスケア事業部 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F

Tel. 06-6364-0529 <http://www.system-network.co.jp/company.html>

田中センイ株式会社 〒518-0444 三重県名張市箕曲中村 207

Tel. 0595-63-7851 <https://www.tanakaseni.co.jp>

学校法人名古屋石田学園 星城大学 〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台2-172

Tel. 052-601-6000 <http://www.seijoh-u.ac.jp/>

[勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について]

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/study/>

[求人情報]

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

[編集後記]

表紙写真：四日市市水沢町 南地神池

第36回三重県作業療法学会のご案内

第36回三重県作業療法学会 学会長 鈴鹿中央総合病院

杉野達也



この度、2026年3月15日（日）、鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスにおいて第36回三重県作業療法学会を開催させていただきます。日々の臨床・教育・研究・地域活動にご尽力くださっている皆さんに、あらためて敬意を表します。

今回の学会テーマは「ナラティブと EBP の融合～物語とともに創る作業療法～」です。科学的根拠に基づく支援(EBP)が広がる一方で、対象者の人生や背景、価値観が織りなす物語に耳を傾けるナラティブの視点も、改めてその重要性が認識されています。数値として見える情報と、語りからにじむ思いや搖らぎを往復しながら、私たちは日々の実践を組み立てています。

そのうえで本学会では、「どのような雰囲気で語り合うか」を大切にしたいと考えています。経験年数や専門領域などの違いに捉われず、それぞれの現場での工夫や悩みを持ち寄り、率直に意見交換ができる場にしたいと思います。日々の実践の中で生まれる素朴な疑問や違和感、「なぜこの関わり方を選ぶのか」「他のやり方はないのか」といった問いは、私たちがこれまで前提としてきた考え方を見直し、実践を磨き

続けるうえで大切な手がかりになります。多様な立場からの問い合わせや意見が交わされることで、ナラティブと EBP の両面から作業療法の価値を捉え直す機会になるものと期待しています。

特別講演には、神経リハの先駆者でナラティブと身体性の統合を探究されている畿央大学の森岡周先生をお招きします。教育講演では、目標設定を軸に語りと根拠をつなぐ実践に取り組まれている東京工科大学の大野勘太先生と、認知症に焦点を当て対象者の生活と活動への関わりを科学的に捉えてこられた大阪公立大学の田中寛之先生にご講演いただきます。ナラティブと EBP を、具体的な臨床・教育・研究の姿として示していただける貴重な機会になるものと存じます。

また一般演題には、30を超える演題の申し込みをいただきました。ご多忙の中ご準備くださった演者・共同演者の皆さんに、心より御礼申し上げます。これらの一般演題はすべてポスター形式とし、発表者と参加者がゆっくり対話できる時間を確保する予定です。同じ三重の地で医療・介護・福祉・教育・行政に携わる作業療法士が、領域や施設の垣根を越えてつながり合い、お互いの実践と物語とエビデンスを持ち寄ることで、新たな一步をともに見いだす場になれば幸いです。学会当日が、皆さんにとって新しいつながりや協働のきっかけとなることを実行委員一同願っております。多くの皆さまのご参加を、心よりお待ち申し上げます。



第36回三重県作業療法学会ホームページ



知人 de LINK

市立伊勢総合病院
伊藤留菜



皆さんこんにちは。訪問看護ステーションかふうの稻垣春南さんよりご紹介いただきました、市立伊勢総合病院の伊藤留菜です。

Q. 業務内容・仕事内容について

私は入職してから急性期・外来部門を担当しており、主に運動器・脳血管・呼吸器・廃用症候群の方を対象にリハビリを行っています。当院には手外科専門医が在籍しており、特に運動器疾患の患者さんが多く占めています。そのため、必要に応じて術前から作業療法を実施し、主治医の指示のもと術後翌日からの介入や、患者さん一人ひとりに合わせた装具作製も行っています。

Q. 仕事のやりがいや面白いと思うこと

運動器疾患の患者さんは、入院でリハビリが始まってから自宅退院後も外来リハビリで引き続き介入することが多いため、長期間担当し、関わらせていただきます。退院後の生活で「できるか」不安に思っていた動作ができたこと、外来リハビリで家事動作や趣味活動の再開、仕事復帰ができたことの報告を聞いたときや、患者さんの笑顔が増えたときはとても嬉しく思い、やりがいを感じます。

Q. プライベートな趣味・特技・マイブームなど

趣味は好きなアーティストのライブへ行くことです。学生時代からライブへ行くことが楽しみでしたが、コロナや子どもが生まれてからは行く機会が減ってしまいました。ここ最近少しずつライブへ行く機会が増えて、ライブでしか味わえない会場の雰囲気や熱量、アーティストとライブに来ているファンでしか作れないあの時間が最高で、「また絶対にライブへ行きたい」「明日からも仕事や家庭のことを頑張ろう」と思える、私にとって大切な時間です！子どもが大きくなったら一緒にライブやフェスへ行くことも、私の密かな夢です。

Q. 次へリンクする方とのエピソードなど

次回は専門学校の同級生であり、済生会明和病院に勤務されている中野敦司さんを紹介させていただきます。よろしくお願いします。

榎原温泉病院
蒔田正俊



皆さんこんにちは。今回、あるふあ訪問看護ステーションの中澤理世さんからご紹介いただきました、榎原温泉病院の蒔田正俊です。

Q. 現在の所属と分野について

現在私は急性期病棟と療養病棟をかけ持つ形で、廃用症候群、脳血管疾患、運動器疾患等、主には高齢期から超高齢期の方の治療に従事しています。

Q. 仕事のやりがいや面白いと思うこと

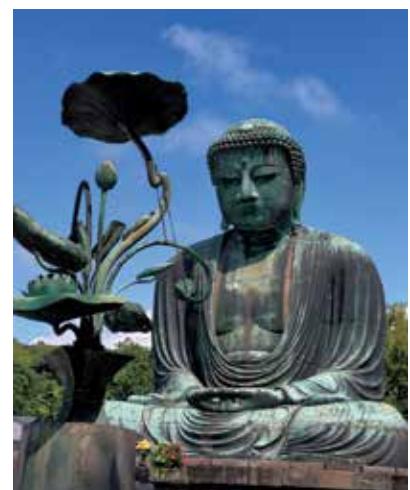
この仕事に面白さを感じるのは、対象者が徐々に変わっていくことを間近にみられることです。活気や活動性が低くなってしまった方々が、不安まじりでも徐々にやりたいことを話していただくようになっていく。そしてセルフケアだけでなく「もう一度なんとか畳がしたいんや。」「皿ぐらいはあらえるようにならんとな。」と IADL にも目が向いてくる様子を見ていると、生活がもう一度動き出していくことを実感できます。そして、その方が疾患や障害を乗り越え、あるいは受け入れながらも前に進んでいく手助けができたとき、大きなやりがいを感じます。

Q. プライベートな趣味・特技・マイブームなど

旅行が趣味です。長距離のドライブや泊まりがけの旅行にも車で赴くことが多いです。昨年に訪れた鎌倉に心惹かれ、今年も滞在しました。魅力的な地域を訪れ日常から離れた特別な時間を過ごすことは、普段の自分を見つめなおす良い機会にもなります。美男子の誉れも高い鎌倉大仏の穏やかな偉容にはぜひともあやかりたいですが、道のりは遠いです。

Q. 次へリンクする方とのエピソード

次回は、みなと在宅介護サービスセンターの森田浩二さんです。養成校時代、同じ社会人経験者で同級生ではありましたが、その時点で医療系の職業を含む実に多くの人生経験をお持ちであり、私を含め多くの同級生が様々なことで助けてもらってきた、皆の頼れる兄貴分です。また、美味しいもの食べにつれて行ってください！



施設紹介

松阪市子ども発達総合支援センター そだちの丘

高山智子



1. 施設紹介

松阪市子ども発達総合支援センター「そだちの丘」(以下、そだちの丘)は、0歳から18歳までの心身の発達に遅れや心配のある子どもを対象に、日常生活における基本的な動作の支援、療育、訓練、集団生活への適応支援などを、子どもの発達段階およびそのおかれている環境に応じて行うとともに、保健、福祉、教育の各分野及び医療やその他関係機関との連携のもと、子どもとその家族が抱える悩みや困り事に寄り添った発達相談を行っています。

また、松阪市で唯一の発達支援事業拠点として、発達支援に携わる人材の育成と、保育園・幼稚園・小中学校等への専門職員による訪問支援巡回相談を行い、子どもが地域で途切れない支援を受け、安心した暮らしを実現するための支援を目指しています。

そだちの丘には、「療育支援係」と「育ちサポート係」の2つの係があります。私の在籍している「療育支援係」には、児童発達支援管理責任者2名、児童指導員1名、保育士14名、OT2名、PT2名、ST3名、看護師1名、公認心理師1名が在籍していて、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・保育所等訪問支援事業・相談支援事業を提供しています。

2. 仕事紹介

OTは、児童発達支援事業・放課後デイサービス事業において、主に個別療育を行っています。日常生活やあそび、運動発達、対人面等に心配のあるお子さんが、家庭や園で生活しやすくなるように、現在の発達段階や特性を具体的に把握し、一人ひとりのお子さんに応じたあそびや身のまわりの動作指導、環境調整などの支援方法を提案しています。

集団療育は、保育士が主となり運営していますが、OT、PT、STもメンバーの一員として入り、多職種で連携しながら活動内容を考え、支援にあたっています。また、保護者支援として家族相談やペアレント・トレーニングも行っています。

保育所等訪問支援事業においては、子どもが生活している園に訪問し、子どもに直接支援を行ったり、職員の方に支援方法を伝えたり、環境を調整するなどの間接支援を行っています。

3. 今後の展望

そだちの丘は、令和8年10月に開設10年を迎えます。今後も、心身の発達に遅れや心配のある子どもやその保護者の方に質の高い専門的な支援を受けてもらえるように、日々自己研鑽していきたいと思います。そして、松阪市内唯一の発達支援事業拠点として、地域における障害児支援の中核的な役割を担っていけるように努めていきたいと思います。



玄関



プレイルーム



療育室

[三重県作業療法士会 創立40周年]

一般社団法人三重県作業療法士会 創立40周年記念式典 総括・御礼

三重創立40周年記念事業 実行委員長 藤田医科大学七栗記念病院 宮坂 裕之



佐藤会長挨拶

令和7年11月29日、アスト津4階アストホールにおいて、一般社団法人三重県作業療法士会創立40周年記念式典を開催いたしました。多くのご来賓の皆様、そして県内から多数の会員の方々にご参加いただき、盛会のうちに節目の式典を終えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

本会は昭和60年に10名の会員からスタートし、作業療法の実践と発展を目指し、医療・福祉・保健・教育など幅広い領域で活動を続けてまいりました。40年という歳月の中で、多くの先輩方が礎を築き、私たちが今日こうして活動できているのは、そのたゆまぬ努力と熱意の賜物であります。この節目の年を迎える改めて感謝と敬意の気持ちを新たにいた

しました。

式典当日は、日本作業療法士協会の山本伸一会長をお迎えし、「作業療法士の未来～求められる組織の役割と専門性の追求～」と題したご講演をいただきました。また、本会の活動を長年支えていた会員への表彰に加え、作業療法士の養成および事務局としてご尽力いただいたユマニテク医療福祉大学校に特別表彰を贈り、感謝をお伝えいたしました。会員の皆様からも、「歴史を感じるとともに、先人の思いを次の世代へつなぐことができた会だった」との声をいただきました。

準備にあたっては、限られた期間の中で委員一同が協力し、会員の皆様のご支援を得ながら形にしてまいりました。多くの方々のご理解とご協力により、このような記念すべき式典を成功裏に終えることができましたことを、改めて心より御礼申し上げます。

最後に、本会がこれから10年、20年、そして50周年へと歩みを進めていくうえで、作業療法士一人ひとりが地域のなかで輝き、専門職としての使命を果たしていくよう、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。



記念写真



県土会表彰



交流の様子

エキスパートに聞いてみよう! パラスポーツについて

南勢病院 浅沼 慎也

三重県のパラスポーツを牽引するOT

パラスポーツ指導員とは何ですか

パラスポーツ指導員とは、公益財団法人日本パラスポーツ協会および加盟団体等が、「公認パラスポーツ指導者制度」に基づいて資格認定する指導者です。日本国内のパラスポーツの普及と発展を目指し、パラスポーツの環境整備に必要な専門的知識・技術を有する人材の育成と、資質向上を目的としています。

また、パラスポーツとは、障害のある人のために競技ルールや用具などが工夫されたスポーツです。

どんなパラスポーツに関わっていますか

私が主に関わっているスポーツはボッチャです。ボッチャとは、白いボール（ジャックボール）にどれだけ自分のボールを近づけられるかを競うスポーツです。競技として取り組む場合は、ボールを規定内の重さに調整したり、材質を変えたりすることもできます。選手と相談しながら調整を行い、その試行を繰り返して技術を磨いていきます。大会では、コーチだけでなく審判も担当します。

また、広報イベントにも関わっており、通常のボッチャだけでなく、床に点数が記されたエリアに投げる「ターゲットボッチャ」や、四方向から投げて競う「スクエアボッチャ」などにも取り組んでいます。

どんな障害の人がパラスポーツに参加されていますか

さまざまな方が参加されています。競技会かイベントかなど、目的によって参加者の傾向が変わることが多いですね。競技会では肢体不自由の方が多く、イベントでは知的障害や脳性麻痺の方が多い傾向があります。

一方で、障害の有無にかかわらず参加するインクルーシブなイベントでは、本当に幅広い方が参加されます。

これからパラスポーツに関わるにはどうすればいいですか

全国には、障害者スポーツ協会などの組織があります。三重県では「三重県障がい者スポーツ協会」があり、公式サイトで講習会やさまざまなパラスポーツ教室が案内されています。興味のあるものに申し込み、参加してみるのがよいと思います。

また、ボランティア活動に参加することも一つの方法です。会場にはパラスポーツ指導員が参加していたり、スタッフとして配属されていましたので、声をかけることで活動内容を聞いたり、つながりをつくりたりすることができます。

支援するにあたって大事にしている視点はありますか？

私は、イベントやパラスポーツに関わるとき、「楽しむこと」を大切にしています。最初は専門的な方法や知識が十分ではなかったので、自分にできることを考えたときに行き着いたのが「楽しさ」でした。楽しさは伝わるもので、自分が楽し



関われば、参加者も楽しく過ごせます。

もちろん、病気や症状に合わせた支援も大切です。「どうすればできるか」「何があればできるのか」を常に考えています。その手段の一つとして「楽しさ」を加えることで、パフォーマンスが上がることもあります。これまでできなかったこと、気づけなかったことを本人や家族と共有できるだけでなく、新たな可能性や治療につながることもあります。



障がい者スポーツ協会 HP

[各部局、委員、ブロックの活動報告 1 啓発部より]

令和7年度一般公開講座について

介護老人保健施設 いこいの森 栗山 翼

令和7年度一般公開講座を、令和7年9月13日（土）に鈴鹿市にあるハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿にて開催いたしました。今回は、講師に鈴鹿市長寿社会課地域包括ケアシステム推進室の相良大輝さんと、長太の寄合所「くじら」の佐野佑樹さんをお招きし、『認知症フレンドリー社会を目指した取り組み～地域でできる支援と共生のために～』をテーマに、現地でのご講演およびオンライン配信を行いました。認知症のある方も含め、誰もが安心して地域で暮らせる社会をつくるために、鈴鹿市のオレンジチーム、小さな本、スローショッピングなど、認知症フレンドリー社会の実現に向けた具体的な取り組みを、実際の事例を交えてお話しいただきました。認知症のご本人やご家族、認知症や地域活動に関心のある方々にご参加いただきました。



ご参加いただいた方々のアンケート結果から、「介護施設や障害者施設に作業療法士の方がおられると、利用者さんも安心して生きがいを持って通っていただけるのではないか」と思いました。(亀山市、40代男性)、「作業療法士さんは認知症の方の生活環境を整えたり、その方の特徴を見極めて支援することができる素晴らしい専門職だと感じました。(鈴鹿市、40代女性)」、「鈴鹿市の取り組みはすごく良いと思いました。それにOTが深く関わっていることを知り、とても元気をもらいました。(金沢市、40代男性)」など、鈴鹿市や作業療法士に関するありがたいご感想をいただきました。啓発部では、より多くの県民や多職種の方々に作業療法士の魅力を啓発できるよう、邁進してまいります。



[各部局、委員、ブロックの活動報告 2 地域リハ部より]

地域ケア会議見学会のご案内

地域リハ部 部長
三重北医療センター菰野厚生病院 伊藤正敏

地域ケア会議は、地域で暮らす高齢者や支援が必要な方を支えるために、医療・介護・福祉など多職種が集まり、課題や支援の方向性を検討する場です。

地域包括ケアシステムの構築に向け、市町村を中心に全国で開催されており、作業療法士をはじめとした専門職の参画がますます求められています。

「地域ケア会議に興味はあるけれど、実際にどんなことをしているのかわからない」

「他市町の会議の雰囲気を見てみたい」

そんな声に応えるため、実際に作業療法士が参画している地域ケア会議への見学・参加の機会を設けています。

一般社団法人 三重県作業療法士会
地域リハビリテーション部

**地域ケア会議
見学会**

地域ケア会議ってどんなことしてますの？
他の市町のケア会議見てみたい
興味はあるけど自分に何ができるの？
誰か相談にのって欲しい

目的
現在全国の市町村が地域ケア会議を開催しています。地域包括ケアシステム構築の実現の一つの手法として、専門多職種の協働のもとに行なう地域ケア会議が位置付けられています。作業療法士が参画することも進められており、求められていることも多くなってきています。
「ほかの市町がどんな雰囲気なのか見てみたい」
などの声に対して、実際に作業療法士が参画している地域ケア会議を見学し実感して学べることを目指します。

対象者
・地域で活躍できる作業療法士育成研修修了者
または 残業者を目指す方
・地域ケア会議出席者 および 今後出席希望する
三重県作業療法士会会員

見学場所
・桑名市・四日市市・東員町・度会町（・その他）
地域で活躍できる作業療法士育成研修修了者
または
地域リハビリテーション部員が
出席している市町村で実施いたします。

申し込み方法
下のQRコードにて必要事項を記載してメールしてください。
日時や場所などは担当者と相談して調整いたします。

多職種連携の実際を肌で感じ、地域支援のあり方を学べる貴重な機会です。

地域ケア会議の経験がない方には、事前に「地域ケア会議とは何か」「作業療法士に求められている役割」などを簡単にご説明し、安心して楽しく見学していただけるようフォローいたします。

今回、早速参加者がいましたので、感想をいただきました。

病院ではお話しする機会の少ない職種の方のご意見を聞くことができ、職種の垣根を超えて検討される場面が印象的でした。

終始アットホームな雰囲気で、対象者に関わるケアマネジャーさんが「明日から取り入れてみたい」と言われる助言がたくさんなされていました。互いの専門性を理解しているからこそ、深掘りする場面では+αの知識を共有し、今回挙げられたケース以外でも参考になる意見が多く、大変勉強になりました。

また機会があれば、いろいろと見学に行きたいです。

来年度も引き続き見学会を企画しようと考えています。ぜひこの機会に、皆様のご参加をお待ちしています。

[各部局、委員、ブロックの活動報告 3 広報部より]

三重県士会公式 LINE に「リッチメニュー」が登場しました！

鈴鹿回生病院 萩野 創

三重県作業療法士会広報部のハギノです！

広報部ではこれまで、会員の皆さまがより便利に県士会を利用できるよう、さまざまな取り組みを進めてきました。入退会などの各種申請のオンライン化、研修会カレンダーの公開、情報発信の整理など、業務の効率化と利便性向上を両輪で進めてきたところです。

今回新たに導入した「公式 LINE のリッチメニュー」は、その取り組みをさらに前へ進めるツールです。リッチメニューとは、LINE のトーク画面下部に常に表示される大きなボタンのことで、県士会や日本作業療法士協会が発信する情報へワンタップでアクセスできます。ホームページ、研修会カレンダー、各種手続き、お問い合わせなど、必要な情報に迷わずたどり着ける“案内板”的な役割を担います。

実際に利用した会員からは、「研修会の日程を探す時間が短くなった」「手続きのページをすぐに開けるので便利」といった声も届いています。特にスマートフォン利用を中心の方にとって、リッチメニューは情報への最短ルートとなり、日常的に県士会を“使いやすくする”効果があります。

広報部では、今後も会員の皆さまにとって役立つ情報提供と、業務効率化に関わる課題解決を進めていきます。リッチメニューはあくまで第一歩です。今後は、研修会通知の最適化や会員向けコンテンツのさらなる充実を図る予定です。



LINE 公式アカウント



[各部局、委員、ブロックの活動報告 4 運転と作業療法委員会より]

運転と作業療法委員会研修会について

岡波総合病院 北山尚汰

令和7年12月4日(木)、オンライン講座にて、上野自動車学校の谷口嘉男先生による「教習所インストラクターからみた障がい者の自動車運転の特性について」の研修会に参加しました。本講義では、教習所の役割や運転再開支援の実際について幅広くご教示いただき、運転評価に携わる作業療法士にとって、教習所という「生活の現場に最も近い専門職」との連携が重要であることを再確認しました。

当院では、ドライビングシミュレーターによる運転評価に加



え、高次脳機能評価や日常生活における行動特性を踏まえて、総合的に運転可否を判断しています。一方で、実車運転による評価は未実施であり、今後、教習所とどのように連携し評価体制を構築していくかが課題です。

本講義を契機に、岡波総合病院と上野自動車学校との連携を一層深め、より多くの患者様の運転再開支援に尽力していきたいと考えています。

[各部局、委員、ブロックの活動報告 5 ブロックより]

北勢ブロック研修会について

北勢ブロック長 桑名市総合医療センター 磯谷茜音

北勢ブロックでは、令和7年11月23日(日)に、長太の寄合所「くじら」の佐野佑樹さんを講師にお迎えし、研修会を開催しました。テーマは「認知症のある人への作業療法～コミュニケーションの工夫と活動参加～」でした。

研修では、対象者にとって大切な活動をどのように見つけるか、関わり方を工夫する際のポイントなどについてお話しいただきました。「越中富山の薬売り」「ミゼット」「おじゃみ」「竹馬」など、高齢の方々に馴染みのある話題も紹介され、こうした話題を用いた関わりや、実践的な内容も多く学ぶことができました。参加者にとって、明日から使える技術が得られる時間となりました。

また、関わり方や環境の調整によって、その人らしい活動の継続が可能となった実際の介入についても共有いただき、大変学びが多く、あっという間に時間が過ぎた研修会でした。

今回は対面での開催だったため、グループに分かれて意見交換をしたり、日頃の困りごとへの対応方法を検討したりする時間も持つことができました。四日市での開催ではありましたが、南勢・中勢・北勢の各地域から参加者が集まり、顔の見える和やかな研修会となりました。

北勢ブロックでは、来年も対面での研修会を開催したいと考えております。開催の際は、ぜひご参加ください。



研修会の様子

[各部局、委員、ブロックの活動報告 6 ブロックより]

中勢ブロック懇親会を開催して

中勢ブロック長 介護老人保健施設つつじの里 小宮悠一郎

令和7年11月29日、中勢ブロックの懇親会を開催いたしました。11施設17名の先生方にご参加いただくことができました。本懇親会の目的はさまざまですが、私としては「会員同士のつながりを持ち、職場以外でも困ったことがあれば頼れる・頼られる関係づくりができれば」という思いが一番にあります。

私は作業療法士として働かせていただいて17年目になります。これまで多くの作業療法士の皆さんに助けていただきながら、臨床や県士会活動を続けてきました。人のつながりがモチベーションとなり、さまざまなことに挑戦しようと前向きになることができました。もちろん、皆さんと同じ思いを持っているわけではないと思います。しかし、職場で一人悩んでいる先生や、職場では相談しにくい内容でも、県士会の集まりであれば話せることもあります。そのような場をつくり、提供することもブロック長として必要ではないかと考えています。

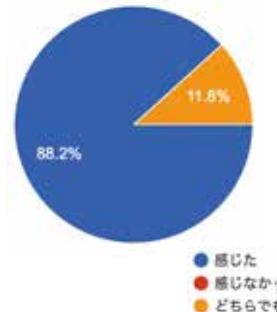
今回の懇親会では、「楽しかった」「参加して良かった」といった趣旨のお言葉を多くいただきました。一方で、名札づくりなど交流を円滑にするための工夫が不足していたことや、時間が短かったことなど、改善に向けたご意見もいただいています。

今後も県士会員の声を伺いながら、交流の機会を企画していきたいと思います。

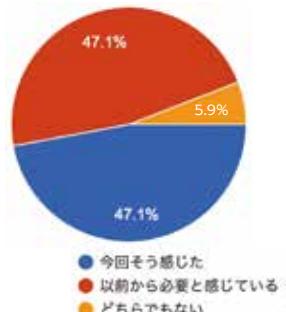


懇親会の様子

懇親会で横の繋がりを持てた
と感じたか



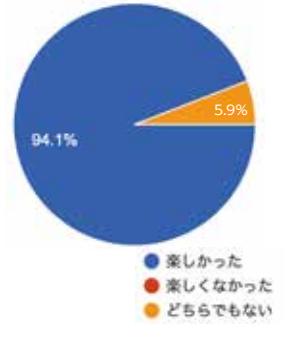
他施設の OT との交流は必
要と感じるか



経験年数



懇親会は楽しかったか



いずれも 17 件の回答

【賛助会員のご紹介】

NihonMokki のパズルレンタルのご案内

指先運動とパズルで脳トレ!科学誌ニュートンにコラムを掲載していた Asobidia の本格パズルが定期的に届きます。レンタルなので、パズルに飽きたころに新しいパズルが届きます!

お問い合わせは こちらの QR コードから



日本モッキ

https://www.nihonmokki.jp/puzzle_rental/
0596-65-6039
e-mail wood@nihonmokki.jp

11



VR型半側空間無視リハビリ支援システム
vi-dere

Vi-dere(ヴィデーレ)はVR技術を用いて、
机上検査ではできなかった、三次元的評価を
実現しました。

無視領域をマッピング用いて
可視化

独自のスリットシステムによる
介入訓練が可能

日常生活面に近いADL訓練課題も搭載
(食事・通路通過など)



撮影協力: 亀田リハビリテーション病院様

視覚認知領域を定量的にマッピング化かつ
ADL場面を含めた評価・訓練が可能になりました

 株式会社システムネットワーク



星城大学大学院 健康支援学研究科

健康支援学領域

障害・リハビリテーションや健康支援・障害予防のための環境と方法を科学する
障害発生後のハビリテーション健康支援と中高年者的心身の健康保持増進に向けた生活健康
支援に関する知識と技術を普及できる臨床家と研究教育者を養成

2026年度 大学院生募集

【お問い合わせ】星城大学大学院入学試験係

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台 2-172 TEL.0120-601-009 FAX.052-601-6010
URL <https://www.seijoh-u.ac.jp/graduate/> e-mail:nyushi@seijoh-u.ac.jp

[勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について]

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。

<http://mieot.com/info-cat/study/>

[求人情報のご紹介]

求人情報の詳しい内容は、作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

[編集後記]

今年度、三重県作業療法士会は創立40周年を迎え、令和7年11月末に創立40周年記念式典を開催いたしました。日本作業療法士協会会長の山本伸一先生をはじめ、ご来賓の皆様より温かい祝辞を賜るとともに、作業療法士の未来についてご講演をいただきました。

本式典は、これまでの三重県士会の歩みを振り返りながら、今後の県士会の役割について考える貴重な機会となり、大変実りある時間となりました。

引き続き、県士会のさらなる発展のためには、会員の皆様のお力添えが不可欠です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

編集: 渡邊 誠 部局員: 佐古健一郎、萩野 創、岡田拓郎、北畠正人

発行所

〒514-1296

三重県津市大鳥町424-1

藤田医科大学七栗記念病院内

一般社団法人三重県作業療法士会 広報部

発行責任者: 佐藤明俊

事務局

〒512-1111 三重県四日市市山田町5538-1

小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター内

一般社団法人三重県作業療法士会 事務局

TEL: 059-328-1260

FAX: 059-337-9511

e-mail: mieotjim@yahoo.co.jp